

孤独に対する捉え方尺度の信頼性・妥当性の検討

○門柙 花恵¹⁾・井松丸 侑加²⁾・井甲田 宗良³⁾

(¹⁾広島国際大学大学院心理科学研究科・²⁾徳島大学大学院創成科学研究科・³⁾徳島大学大学院社会産業理工学研究部)

【問題と目的】

孤独及び孤独感は無くすべき・克服すべきものとして扱われるが、「孤独」という事象に対する個人の認知的な側面である「孤独に対する捉え方」に着目した研究(大東・岩元, 2009; 清水他, 2015)では、孤独に対して肯定的に捉えることは、実際の孤独感に関わらず、精神的健康を増進するなど、適応的な状態であること示された。

しかし、これらの研究で使用された「孤独に対する捉え方尺度」(大東・岩元, 2009)には再検査信頼性や各因子得点の基準関連妥当性の検討が不十分である。そこで本研究では、本尺度の再検査信頼性、基準関連妥当性の検討を目的とした。

【方法】対象者と手続き 大学生 113 名を対象に Google Form を用いたアンケート調査を行い、有効な回答が得られた 104 名(女性 71 名, 男性 30 名, その他 1 名, 回答しない 2 名)の回答を解析した。また、再検査信頼性の検討では、追跡可能だった 34 名(女性 22 名, 男性 10 名, その他 1 名, 回答しない 1 名)を解析に用いた。**基本情報** 年齢, 性別を尋ねた。**指標** 孤独に対する捉え方尺度(大東・岩元, 2009)は、孤独に対する「肯定的評価」, 「否定的評価」, 「自己成長機能」の 3 因子であった。**改訂 UCLA 孤独感尺度(UCLA;** 諸井, 1992)は、孤独感の強さを測定する尺度であり、孤独に対する捉え方と孤独感を識別するために使用した。**孤独感類型判別尺度**(落合, 1983)は、「人間同士理解・共感できると感じているか否か(LSO_U)」, 「人間の個別性に気づいているか否か(LSO_E)」の 2 因子であり、先行研究でも用いられた指標である。**Rumination-Reflection Questionnaire (RRQ;** 高野・丹野, 2008)は、「反芻」と「省察」の 2 因子であり、反芻が否定的評価, 省察が自己成長機能評価と関連することを想定。一人でいる能力尺度(野本, 2000)は、「孤独不安耐性」などの 4 因子の尺度であり、孤独を肯定的に捉えることとの関連を検討するため使用した。**倫理的配慮** 本研究は、徳島大学大学院社会産業理工学研究部社会総合科学域研究倫理審査委員会の承認を得て行われた(受付番号: 279)。

【結果と考察】

信頼性の検討 因子分析に関しては、先行研究と同様に 3 因子が確認された。また、内的一貫性は十分な数値であった。再検査信頼性の検討で行った級内相関係数は、否定的評価は.810, 肯定的評価は.736, 自己成長機能評価は.557 であった。自己成長機能が十分な数値でなかった理由としては、孤独による自己成長の認識が、環境変化の影響を受けやすいものであると想定された。

妥当性の検討

Table 1

孤独に対する捉え方尺度と他の尺度との相関係数

尺度	孤独に対する捉え方尺度		
	否定的評価	肯定的評価	自己成長機能
RRQ			
反芻	.30 **	-.13	-.01
省察	-.01	.19	.36 **
UCLA	.09	.07	-.12
LSO			
LSO_U	-.02	-.16	.08
LSO_E	-.19	.39 **	.17
一人でいる能力			
孤独不安耐性	-.48 **	.29 **	.04
くつろぎと孤独欲求	-.12	.30 **	.28 **
つながりの感覚	-.07	.00	.18
個別性に対する気づき	-.11	.10	.27 **

** $p < .01$

「孤独に対する捉え方」は UCLA と相関がなく、孤独感そのものとは別の概念であると示唆された。また、「孤独に対する捉え方」の肯定的評価と LSO-E の間に正の相関が確認された。一方、一人でいる能力の「個別性に対する気づき」と肯定的評価には相関がみられなかった。これらの矛盾した結果に関しては、質問項目のニュアンスの違いによるものだと考えられる。反芻と否定的評価, 省察と自己成長機能との間に正の相関が認められた。反芻が抑うつをもたらすこと(高野・丹野, 2008), 内省は孤独による人生の意義の低下を防ぐ可能性(Borawski, 2022)といった知見を支持する結果となった。以上より、「孤独に対する捉え方尺度」の大東・岩元(2009)では検討されていなかった再検査信頼性, 各因子得点の基準関連妥当性を確認することができた。

今後の課題としては、ライフイベントが孤独に対する捉え方に与える影響やこの尺度が大学生以外にも適用できるかどうか検討することがあげられる。